

資料1 熱海地区の津波対策（課題と対応策）（第1回・第2回地区協議会のまとめ）

第4回地区協議会資料
（平成29年3月29日）

開催日		H27. 7. 30地区協議会（第1回）	H28. 1. 26地区協議会（第2回）	H28. 12. 21地区協議会（第3回）	考えられる対応策
分類		意見	意見	意見	
堤防施設	全体	[L1以上] ・全線7.0m ・津波を湾全体で受けるようにする ・高さ：7m ・範囲：全海岸沿い ・基本は景観をこわさない様 ・統一 7m 高い方が良い ・現在の位置で7m確保 ・景観に配慮しても実現が可能	【参考】 レベル1津波高さ T.P.+7.0m サンビーチ背後現況 T.P.+6.0m 既存デッキ現況 T.P.+6.6m 和田浜南現況（路面）T.P.+2.0m～	[L1以上] ・見えるようにしてもらえらるなら 7m ・7.0mに ・防潮堤 7m [現況～L1未満] ・景観を重視 6.6mでそろえる ・6.6mで統一 ・観光地として6.6mあるのでそれでいい サンビーチも60cm上げるだけですむ	・地元との合意形成がとれれば、L1津波高さに対する防潮堤の整備を検討できる。 ・防潮堤の高さについては、地元との合意形成により、L1津波高さに対する必要堤防高以下の高さに決めることができる。 ・渚4工区の早期完成を目指す。 → 渚4工区～マリンスパ間の防潮堤・胸壁整備（継続）（H-1-1） → 横磯防潮堤（サンビーチ背後）のかさ上げ（H-1-2） → スカイデッキ・レインボーデッキ・渚デッキの耐震対策（H-1-3）
	サンビーチ	[現況～L1未満] ・6.0m→6.6m	・サンビーチ～渚デッキまでは現況高さのまま（離岸堤・砂浜があるので） ・堤防を7mで整備 マリンスパまで ・デッキ部分 6.6m（現況高）	・サンビーチの老朽化対策がOKなら+0.6mで嵩上げ（TP+6.6m）する ・サンビーチ+1.0m嵩上げ 景観上疑問 ・高さは統一する 既設にはあまり手をつけなくて水門、4工区に力を入れる ・防潮堤は現状維持 第4工区整備が優先 [現況のまま] ・ホテル事業者からしたら上げない方がいいが住民のことがあるので意見は出せない ・避難の方に重点を置くべき（ハードも必要だが）	
	サンビーチ～既存デッキ	[L1以上] ・中央部東海岸部は7mで良いと思うが和田浜部は後の旅館もあるので難しい [現況～L1未満] ・7mは高すぎる 半分程度では 観光都市の意味あり ・高さ 防潮堤6m60cmに [現況のまま] ・現況 ソフト対策 強化 ・現況の高さ 避難しやすくすることに重点を ・現況で良い ・現状のままで良い ・避難する為に海が見えた方が良い		【H29. 1. 12関係町内会長打合せ】 ・サンビーチ～既存デッキ～4工区を6.6mとする。 （既存デッキの現況堤防高6.6mを基本としサンビーチ背後を6.6mまでかさ上げする） ・将来、レベル1地震動に対応した改良（既存デッキ沈下分のかさ上げ）をする。 ・観光面からは、今のまま（6.6m）でいいと思う。安全は別の形（ソフト対策）を考える。 ・既存デッキを40cmかさ上げするより、4工区・水門の整備が優先	
	サンビーチ～既存デッキ	[L1以上] ・堤防高7m ムーンテラス～マリンスパ前まで ・現況で6.6m 階段2段くらい ・デッキのかさ上げは実現可能な案 ・7m 6.6→7 [現況のまま] ・高さ現況6.6mに合わせる ・高さ 現況6.6m ・現在の高さ6.6mあり 経費を掛けて7mにするのはどうか ・防潮堤 高さ十分と考え ※（渚小公園）現況で良い ・現況で良い 景観上又観光上必要なし ソフト面で考えて		・マリンスパ前（渚4工区）の工事を早急にやってほしい 【H28. 11. 28和田浜地区打合せ】 ・マリンスパ南側は、サンレモ公園側に整備 ・利用に配慮した（階段状、スロープ状の）擁壁・陸間 ・階段状の護岸整備（人が逃げられるように）	
4工区	[L1以上] ・マリンスパまで7m マリンスパから先は判断出来ない [現況～L1未満] ・未整備の箇所についてはすでに整備済の箇所と合わせると良いと思う ・コースタル第4工区 早期完成を この地区が弱い				

開催日	H27. 7. 30地区協議会（第1回）		H28. 1. 26地区協議会（第2回）		H28. 12. 21地区協議会（第3回）		考えられる対応策
分類	意見		意見		意見		
堤防施設	和田浜南	<ul style="list-style-type: none"> [現況のまま] ・和田浜南地区は現況のまま ・客船待合所周辺景観に沿うように 	<ul style="list-style-type: none"> ・和田浜南は景観に配慮した高さで整備 ・ソフト対策だけではなくハード対策も必要 ・0mか7mかではなくその間でも出来る範囲で整備をして欲しい、位置は前面 ・1.0~1.2mの高さで ・フェリー乗り場付近には海上の船などが押し寄せてくる→国道への影響 ・和田浜南は地元の意見をきいては ホテルや漁協の人たちが主 ・地区の町内会、ホテル関係者と話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> 【H28. 11. 28和田浜地区打合せ】 ・防潮堤は整備しない（避難路などソフトで対応する）。 			<ul style="list-style-type: none"> ・防潮堤等の整備はしない。
	水門整備	<ul style="list-style-type: none"> ・各河川に水門を ※河川の河口に水門を設置 熱海和田川、初川、糸川 ・水門 遠隔操作 ・糸川、初川、和田川 水門 7m 6.6→7 水門でデッキをつなぐ ・川は水門 ・河川(水門)：しゃ断式 	<ul style="list-style-type: none"> ・3河川の水門整備 ・水門をつくる（マリンスパまで） ・河川、河口、水門整備（スカイデッキ～渚デッキ） 		<ul style="list-style-type: none"> ・水門 ・初川の水門には橋の構造とする 	<ul style="list-style-type: none"> ・防潮堤の高さに合わせた水門の整備を実施。 → 熱海3河川について、施設効果の高い順に河口部水門を整備（初川から着手）(H-2) 	
	下水処理場	<ul style="list-style-type: none"> ・下水道用地護岸の所を上げる ・浄水管理センターの保護 ・現況で処理場前は7m必要 1Fに槽がありポンプがダメになる 	<ul style="list-style-type: none"> ・下水処理場自体が避難所となるように整備する ・下水処理場は守る（堤防整備） ・浄水場付近は眺望に問題ないので施設を守るためにも護岸で囲む 	<ul style="list-style-type: none"> （市（下水道部局）） 【H28. 10. 20熱海市下水道課打合せ】 ・下水処理場はL2対応（避難対策と機能維持） ・施設の防水化・耐水化が対策のメイン ・対策内容は検討中 			
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・離岸堤の高上により背後高は現状のままでよし ・防波堤の整備により（延長 250m）防潮堤高を下げることも可能 ・既設の陸間の電動化を 					
ソフト対策	全体	<ul style="list-style-type: none"> ・既設の建物を利用して避難をする ・避難タワーを市の土地に作る。糸川沿いの堤（現在駐車場） ・津波避難ビルを増やす ・モニュメント型の避難タワー欲しい ・住民+観光客の避難 ・波高計の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・サンビーチ避難場所がない ・避難路整備（デッキ、歩道橋） ・サンビーチ周辺のホテル等の意見を聞いてみる ・暗いときの避難路の表示 	<ul style="list-style-type: none"> 【避難路】 ・全体を階段にしてはどうか（サンビーチから） ・高い所に逃げる ・建物が無い所を避難路にする ・避難路狭い ・河川沿い以外全道路は避難路となる ・アーケードは物が落ちると危険 ・温泉タンクからもれてお湯が通った あつくて通れない 	<ul style="list-style-type: none"> ・サンビーチからの避難 → 横磯防潮堤（サンビーチ背後）海側階段増設(S-1-2) ・アーケードの安全性調査 → 安全性の調査(S-1-5)（調査結果により設置者に対応を勧告） 		

開催日	H27. 7. 30地区協議会（第1回）	H28. 1. 26地区協議会（第2回）	H28. 12. 21地区協議会（第3回）	考えられる対応策
分類	意見	意見	意見	
ソフト 対策	全体		【避難路（国道135号）】 ・デッキに逃げてそこから逃げられるようにできれば良い 橋等 ・橋で国道をわたれるように ・国道を渡れる横断歩道 ・(国)135号の車を止める ・国道の横断が問題となる ・車をとめる	・サンデッキ(T. P. +8. 2m)は約800名の緊急避難に活用可能 → サンデッキ耐震調査(S-1-3) → 耐震補強(調査結果による) ・国道の陸側歩道が狭いため歩道橋の設置は困難 ・浸水想定区域内の国道への車両流入を防止 → 津波浸水想定区域起終点標識設置(緊急時は車両を山側へ誘導)(S-1-4) ・渚歩道橋(T. P. +10. 6m)は約400名の緊急避難に活用可能
			【避難路（路面標示）】 ・路面表示 ・避難路への誘導 ・外国人でもわかるサイン ・花火大会のとき避難路の掲示が必要である	・避難経路の表示 → 避難方向路面標示(S-2-2) (モデル施工の結果による)
			【避難路（照明）】 ・ソーラー照明灯 ・ホテル街ソーラーの照明灯が必要である	・ソーラー式照明灯の設置 → ソーラー式フットライト設置(サンデッキ)(S-3-1) → ソーラー式フットライト設置(渚歩道橋)(S-3-2)
			【避難ビル・避難タワー】 ・津波の到達時間に合わせて計画すべき(避難ビルなど) ・旅館に避難を協力 ・避難スペースにできないか? (「お宮の松」前未開業の建物) ・外階段、ろうかスペースでどの位人が避難できるか(200人) ・沿道建物の耐震化 ・避難タワー	・避難ビルの追加 → 避難ビル指定見込(糸川右岸(渚町)で建設中のビル)(S-4) ・新規開発行為の申請時に、開発者に対し避難ビル指定を依頼
			・和田浜南地区避難体制を整備する ・海岸から急しゅんな地形で避難可能	・和田浜は整備せずに避難ビルにて対応 ・待合所等の屋上を避難スペースとして活用 ・和田浜南 堤防よりも避難路 ・和田浜南 (国)135号に上がる階段 【H28. 11. 28和田浜地区打合せ】 ・夜間の照明(現状は外灯のみ) ・旅客船利用者の避難 多い時で500名 ・国道へ抜ける道、階段 ・待合所のかさ上げ(普段は展望台) ・避難階段整備 ・色塗りした舗装で避難経路を示す → 「ラインに沿って逃げる」という誘導 ・(観光客への)案内プレート 50mおきくらいに設置
その他	・津波深水高と景観を考慮して(コストも含め) ・遡上のシミュレーションを詳細に		・観光客対策 ・避難弱者を守る避難計画をつくる	